

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700104		
法人名	医療法人慈風会宮崎病院		
事業所名	グループホームみやざき		
所在地	坂井市三国町北本町2丁目2-6		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院との併設によるグループホームとして、緊急時の対応ができており、ご家族の負担の軽減が図れる
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はえちぜん鉄道三国駅前立地しており、近隣にはスーパーマーケットや図書館、神社などがある利便性の高い場所にある。事業所は母体法人宮崎病院の中にあり、系列のデイケアや認知症対応型デイサービスの利用者や交流を持ちながら支援している。ADLの低下した方にも母体病院の協力を得ながら対応しており、重度化した場合は家族や利用者話し合いの場を持って併設の施設に移行しており家族の安心に繋がっている。また、食事は母体が病院であるため病院食となっているが出来るだけ家庭的な茶碗にしたり、トレーからランチョンマットに移して提供するなど工夫しながら支援している。また、日常の活動の中で利用者の笑顔を写真に撮って個別のアルバムを作成しており、利用者の日常生活を知る事が出来ると家族から喜ばれている。
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成することにより職員間でその理念を共有し支援に努めている。	利用者が穏やかで笑顔の出る温かな生活ができるよう、管理者をはじめ職員が話し合っ て理念を作成している。理念の実践につい て、日々振り返ると共に、定期的なスタッフ会 議の中で振り返って実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にも積極的に参加し交流を深めています。	母体法人が自治会に加入しており、利用者は院内の通所デイケアを訪問する保育園児や地域住民と交流している。また、法人内の受付や通路に制作物を掲示し訪問した地域住民に事業所の日々の活動を発信している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流に参加することによって、認知症への理解も認識して頂けるよう心がける。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催にて現状や取り組みなどの報告に対してご意見を頂き、サービスへ反映するように努めています。	自治会代表、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、広域連合担当者の参加を得て開催しており、開催時間を夜間帯とするなど家族が参加しやすいよう配慮している。会議では事業所の運営状況や家族の要望に対する取り組みを報告するなど意見交換の場となっている。	運営推進会議の議事録は、事業所の日頃の取り組みなど分かりやすくまとめられているので、今後は参加できなかった家族に議事録を送付するなど、家族がより事業所への関心が深まるように取り組まれることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったこと、疑問はその都度電話で問い合わせたり、運営推進会議で地域包括の方に相談している。	地域包括支援センター職員や広域連合職員とは連絡相談しやすい関係であり、連携が図られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目標としているので、現状では拘束はないが、夜間のみ、入りの施錠はしている。	職員は身体拘束について十分に理解しており、転倒防止や安全について個別に注意して支援している。利用者に外出を希望する様子が見られたときは、さりげなく付き添って散歩に出掛けるなど拘束のない支援をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の知識をもとに、虐待のない介護に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在是对象者はおられないが、資料等で理解を深め、研修などにも参加し必要時是对応していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族との話し合いにて、不安が残らないよう説明させて頂き、理解、納得して頂けるよう心がけています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院全体での意見箱は設置している。ご家族からのご意見、要望はその都度運営に反映させるようにしています。	家族が面会時やドライブ等で同行した場合やホーム行事に参加した場合などに家族の要望や意見を聞いて運営に活かしている。また、日々の係わりの中から利用者の意向を把握し反映させるよう努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるよう努めています。	管理者は、月一度のスタッフ会議の際に職員の意見や提案を聞く機会を設けると共に、職員が日頃から意見や要望を言い易い環境作りに努めている。なお、提案された事項は出来る限り運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルアップを促し、外部研修へ参加する機会を持てるようにしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修やイベントへの参加を促し職員の技術の向上に努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会がないのが現状ですが、相互の訪問なども今後の課題にしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時には、ご本人、ご家族の不安や要望等を十分聞かせて頂き、本人にもご家族にも安心して頂けるようなサービスの提供に努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時にご家族の困ったことや、不安な事の思いを聞き、施設について納得して頂けるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設での対応が困難な状況になった場合はご家族との話し合いと理解を得た上で、サービスの対応に心がけています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごすなかで、個々に応じた関係を築きお互い学びながら、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には現状を伝えることにより、知って頂き一緒にご本人を支えていけるような関係を心がけています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くのスーパーや美容室、院内のデイなどへの、顔見知りの方がいる場所への出入りも途切れないようにしています。	利用者の自宅へドライブし知人と話す機会を設けたり、手紙や年賀状を書く下書きを手伝うなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や感情の変化なども見極め、利用者様同士が関りをもてる様支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し、併設の病院への入院となる事もあり、面会時などに出会うご家族との関係も引き続き大切にしています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族との話し合いでそれぞれの意見を反映した介護計画の作成を行っています。	職員は利用者との日々の会話から思いを把握している。なお、意思疎通の困難な利用者には家族から情報を得たり、表情や反応などから思いを汲み取るよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、ご本人からの聞き取りも行い、ご家族からの情報収集も行っています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、バイタルにて、状態の把握、日々の関りのなかで、職員全体が周知できるよう、記録申し送りにて現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、関係者等でのカンファレンスでの意見を反映させた介護計画の作成を行っています。	利用者や家族の意向を踏まえ、利用者の生活歴にも配慮しながら介護計画を作成している。職員は利用者2～3名を担当し、日常は重点項目の記載されたケアチェック表を用いきめ細かく支援している。なお、利用者に状態変化があればその都度介護計画を見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い常に職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望に応じ、併設の事業所にも自由に参加し、その時々生じるニーズに合わせた対応を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院内にある事で、医療面や、そのことにより精神的な安心感を生み日々の暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当院との24時間医療連携を取っており、ご本人、ご家族の希望もあり、往診などの適切な医療が受けられるよう支援しています。	希望するかかりつけ医を選択できるが、多くの利用者が入居前から母体法人の病院をかかりつけ医としている。3か月毎の定期受診には、家族も同席し利用者の状況を医師から直接聞けるよう配慮している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には日々の状態を常に伝えており、利用者様が適切な看護が受けられるよう支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が安心して治療が受けられるよう看護師と連絡を密にし、看護師を通じて医師との関係作りをしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入所時にも説明しご家族の意向も聞かせて頂き必要な段階になった時にはご家族、主治医、看護師との話し合いを持ち支援に取り組んでいます。	事業所は、利用開始時に利用者や家族に医療連携体制について説明をしており、重度化し医療行為が必要になった場合は、併設の介護療養型や病院に移行することに同意を得ている。しかし、看取りについてはスタッフや家族と話し合いの場を持ち、利用者の意向に添うよう取り組んでいる。	終末期の対応について、本人や家族の意向があれば支援する方針であるため、今後は看取りケアについて、研修を開催したり職員全体で話し合ったりするなど具体的なケアの方針を確認されていくことが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の研修にも参加し、マニュアルを作成し実践力を身につけるようにしています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の病院と共に消防署の指導のもと避難訓練を行っている。災害時の消防署の全面的な協力体制を築いています。	母体法人と共に夜間を想定したものを含め、年2回の避難訓練を実施している。非常食などは母体法人の栄養部で備蓄している。	夜間想定での避難訓練は、管理者が実際に手順を確認し、職員で振り返りを行うなど、避難がより一層円滑かつ安全に行われるような取り組みを期待したい。また、参加しなかった職員を含めて振り返り内容や避難手順について定期的に話し合うなどの取り組みも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声かけにも注意し、プライバシーにも配慮し対応している。	家庭的な温かい雰囲気大切にしながら、利用者の尊厳に配慮した声かけをしている。また、個人情報の記録場所や収納場所などについても、利用者の目に触れないよう適切に管理されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し自己決定に結びつける。表情かしくさから思いをくみとるよう努力しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望を尊重し、本人のペースを大切にしよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪は近くの美容室まで散歩がてらに行ってます。みだしなみでは本人の好みを優先し支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	病人食を提供している事もあり、好みのメニューとはいかないのですが、昼食の一品は可能な方と一緒に準備していただき、後片付けもしています。	母体法人の栄養士が利用者の嗜好調査を行い、行事食や外食などに活かしている。また、季節の食材が提供された時は献立とは別に提供している。利用者は職員と共に準備や味付けを行い、職員と一緒に食事を摂りながら会話するなど食事時間を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録しており、水分の摂取には特に配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の力に応じた口腔ケアの支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ排泄はトイレで行えるよう支援し、個々の排泄パターンに応じ、こえ掛け誘導を行っています。	事業所全体でオムツ外しに取り組んでおり、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間や表情をみながらさりげなく声かけてトイレに誘導している。夜間、歩行の困難な利用者にはポータブルを利用するなど排泄の自立を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の便秘の原因を理解し、運動や水分、もしくは便秘薬なども取り入れています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の利用となっているが、全員が介助を必要としているので、拒否されたりする方は、タイミングを見て再度対応している。	個浴でゆったりとした入浴を支援している。身体機能が低下した利用者が多いが、出来る限り法人の機械浴を利用せず、事業所の家庭的なお風呂での入浴を支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースで自由に過ごして頂き、夜間は居室の温度の調節をし気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬のリストはにファイルに綴じてあり、全職員が確認できるようにしている。誤薬がないよう努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が生きがいや喜びのある生活が送れるよう希望に添った気分転換にも対応できるよう支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ本人の希望を聞き、外出や散歩の支援を行っています。時にはご家族の協力も得て一緒に出かけたりもしています。	季節行事による外出をはじめ、利用者の希望に応じて散歩や近くの図書館、外食などに出掛けており、時には家族の協力も得ている。また、建物内の外来へ新聞を取りに行くなどの役割を設け、事業所内に閉じこもらないよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方はご自分で管理されています。そうでない方でも必要時にはご家族と相談して対応しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特にご自分から電話をされる方はいませんが、遠方の家族への手紙まで希望される方にはその都度対応しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では、利用者さんの作品が展示され生活感もあったり、ソファでの居心地よく過ごされるよう工夫しています。	共用空間には利用者の季節感のある作品が展示され、開放された部屋からの採光も明るく居心地がよい空間となっている。また、デイケア利用時に訪問する知人と思いいに過ごせる場所も確保されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の空間にソファなどを置き、自由に過ごして頂き、DVDやカラオケなども楽しんで頂くよう工夫しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使っていた布団などを持ってこられたり家族の写真や好きな音楽なども聴けるように家族と相談し心地よく過ごせるよう工夫しています。	利用者の使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、入居後の作品や鉢植えなども飾られ温かい雰囲気の居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事は分担して、見守りの中安全に作業が出来るよう努めています。		